

経営情報論		講義	教授 梅井 勇之	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目, 経営・経済コー スの選択必修科目	科目ナンバリング	23201201	

1. 授業のねらい・概要

社会は、農耕社会から工業社会を経て情報社会に変化し、Society5.0という新しい社会に向かっている。経営情報論ではデータを使って問題解決をするためのデータサイエンスに焦点をあてる。データサイエンスは、コンピュータの発展に伴い大量のデータ処理が可能になったことにより、統計や情報などの手法や知識を活用して、大規模なデータセットから問題解決に必要な知見を引き出す分野である。

本講義では、「情報社会とコンピュータ」で基礎を学んだあとの応用分野（デジタルビジネス）を学ぶ。デジタルビジネスとは、主にデータをビジネスに利活用する新しい分野のことである。企業が提供する新しいサービスの利用や、企業が収集したデータの利活用について学習する。具体的には、ビッグデータの収集・蓄積・活用や、観光における情報化やデータの活用、医療における情報化やデータの活用についても紹介する。

本科目は、文科省の数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）の知識全般を身に付けることができる。

2. 授業の進め方

- ・講義中心に進めていく。
- ・理解を深めるために定期的に課題を出題する。
- ・コンピュータ教室を利用することもある。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. デジタルトランスフォーメーション
2. ハードウェア	10. eコマースとデータ活用
3. ソフトウェア	11. ビッグデータの収集・蓄積・活用
4. 第4次産業革命	12. 観光における情報化
5. 統計とコミュニケーション	13. 観光データの活用
6. 自然言語処理	14. 医療における情報化
7. データの標準化と予測	15. 医療データの活用
8. データの処理と可視化	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

企業が利用する情報システムにおける人工知能（AI）活用や企業が収集したデータ活用など、インターネットや教科書で調べてみること。（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・課題を出題する際にはヒントを与える。
- ・次回の授業の冒頭で模範解答を説明する。
- ・定期試験の際には、解答状況をコメントする。

6. 授業における学修の到達目標

データサイエンス応用分野について理解し、ビジネスの現場や日常生活で積極的に活用できる。

7. 成績評価の方法・基準

課題の内容（50%）、定期試験の結果（50%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書：「新入生のためのデータサイエンス入門」，共立出版，2023 年

9. 受講上の留意事項

- ・身近にある AI を搭載したシステムやサービスについて常に意識を持つこと。
- ・データ活用についても，どのような商品やサービスで活用しているのかを調べてみる。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。